

表 1 校種別の主な実践事例

(1) 幼稚園	
Case 1	防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」
Case 2	防災映画の鑑賞と避難訓練
Case 3	消火訓練と消防車見学
(2) 小学校	
Case 1	防災カルタ、防災クイズ（低学年）
Case 2	防災グッズ「新聞紙スリッパ」づくり（低学年～中学年）
Case 3	地層の見学・観察学習（中学年～高学年）
Case 4	D I G（災害図上訓練）と防災マップ発表会（高学年）
(3) 中学校	
Case 1	防災シミュレーションカードゲーム「クロスロード」
Case 2	非常用テント、段ボールベッドの組み立て
Case 3	防災施設見学やハザードマップを活用したフィールドワーク
(4) 高等学校	
Case 1	津波シミュレーション講話を踏まえた避難訓練
Case 2	防災ポスター作成と防災講話
Case 3	関係機関と連携した避難訓練と避難所設営体験
Case 4	避難所運営ゲーム（北海道版「Do はぐ」）
Case 5	レスキューキッチンを使用した炊き出し訓練
Case 6	教科と関連付けた防災教育（防災ノートの活用）
(5) 特別支援学校	
Case 1	津波体験と避難訓練（知的障がい）
Case 2	防災に係る作業学習と防災講話等（知的障がい）
Case 3	段ボールベッド組立と非常食体験（視覚障がい）
Case 4	防災カルタと避難所運営ゲーム（聴覚障がい）
Case 5	避難訓練・防災講話等（肢体不自由）
(6) 学校間の連携事例	
Case 1	小学校における幼稚園との合同避難訓練（幼稚園と小学校の連携）
Case 2	小中学校合同の避難所設営体験や水害VR体験（小学校と中学校の連携）
Case 3	高校生による幼稚園への出前授業（幼稚園と高等学校の連携）

Case1 防災カルタ、防災クイズ（低学年）



- **ねらい・ポイント**
 - ・地震や津波、火山、気象など、北海道の自然災害や、必要な防災知識を楽しみながら身に付けさせる。
 - ・確認した知識をもとに、「なぜその行動が必要か」を考え、理解を深める。
- **内容（生活科・特別活動）**
 - ・低学年でも楽しめる「かるた遊び」や「防災クイズ」を通じて、北海道の自然災害のリスクや防災に関する知識を学びます。
- **地域や関係機関との連携**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員による司会進行、解説

外部講師等が進行するだけではなく、児童がカルタを読んだり、クイズを出すことで、主体的に学ぶ姿勢が身に付きます。

図2 小学校低学年の実践事例

Case2 防災グッズ「新聞紙スリッパ」づくり（低学年～中学年）



- **ねらい・ポイント**
 - ・身の回りのものを使って、防災グッズを作成することを通して、災害時の物資が乏しい状況での対応について理解させる。
- **内容（総合的な学習の時間）**
 - ・身近にある新聞紙を使って、災害時にガラスの破片等から足を守るための「新聞紙スリッパ」のつくり方を学びます。
- **地域や関係機関との連携**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員による司会進行、防災グッズの活用に関する解説

「新聞紙スリッパ」をつくるだけではなく、災害時のどのような場面で使うことができるか話し合い、災害時の行動力を養います。

図3 小学校低学年～中学年の実践事例

Case3 地層の見学・観察学習（中学年～高学年）

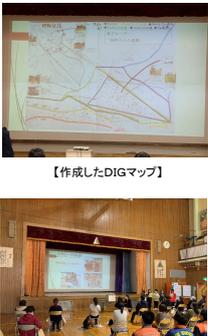


- **ねらい・ポイント**
 - ・自然に触れることにより、地域特有の災害の特徴を体験的に学び、事後の観察を通して理解を深める。
- **内容（理科・総合的な学習の時間）**
 - ・地層見学の体験活動を通して、災害の特徴等を学んだ後、採取した地層を観察して災害の歴史を知り、理解を深めます。
- **地域や関係機関との連携**
 - ・山梨県富士山科学研究所等職員による解説や進行

地層を見学するだけではなく、採取時に実際に地層に触れ、深く観察をすることで、知識や理解が定着します。

図4 小学校中学年～高学年の実践事例

Case4 DIG（災害図上訓練）と防災マップ発表会（高学年）



- **ねらい・ポイント**
 - ・DIGを通して、災害時の対応行動を児童が自ら考え、危険を回避する能力を育成する。
 - ・DIGで考えたことを踏まえ、地域を探索して災害時の危険箇所について理解を深める。
- **内容（総合的な学習の時間）**
 - ・地域の危険箇所や災害発生時に起こりうる様々な事態への対応行動を考え、地図に書き込みます。
 - ・DIGで考えたこと踏まえ、地域を探索し、災害時の危険箇所について考え、防災マップを作成します。
- **地域や関係機関との連携**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員による図上訓練の進行やフィールドワークの引率

防災マップの発表で、他の児童の視点を共有することにより、災害時の危険箇所等への理解が深まります。

図5 小学校高学年の実践事例

Case1 防災シミュレーションカードゲーム「クロスロード」



- **ねらい・ポイント**
 - ・災害対応を疑似体験することにより、災害発生時に直面する想定外の問題に対し、対応を選択することができるようにする。
- **内容（総合的な学習の時間、学級活動）**
 - ・阪神・淡路大震災の際に実際に問題となった「災害対応のジレンマ」に対し、YESかNOを決め災害対応をシミュレーションします。
- **地域や関係機関との連携**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員が司会進行、解説

YESかNOを選んだ理由を他の生徒に聞くことで、他者の様々な考えを知り、多くの価値観に触れることができます。

図6 中学校の実践事例1

Case2 非常用テント、段ボールベッドの組み立て



- **ねらい・ポイント**
 - ・屋外やコロナ感染症対策のために感染者用に使用する非常用テントの設置体験等を通して、災害時の避難所生活や運営についてイメージし、理解することができるようにする。
- **内容（総合的な学習の時間）**
 - ・災害時に避難所となる学校の体育館などで、プライベート空間を確保しながら生活するためにテントやベッドなどの設置を体験します。
- **地域や関係機関との連携**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員が司会進行、解説
 - ・市町村の避難訓練等に合わせて実施し、地域住民も参加

避難所生活におけるプライベート空間の確保の必要性や他者への配慮を理解するとともに、避難所開設・運営にはどのような準備や対策が必要か理解が深まります。

図7 中学校の実践事例2

Case 3 防災施設見学やハザードマップを活用したフィールドワーク



【防災施設の見学】



【施設職員から説明を聞く中学生】

- **ねらい・ポイント**
 - ・ハザードマップで災害時の被害発生が示されている場所を実際に訪れ、津波の高さや、到達時間、周辺情報などを調べ、町の防災対策や危険箇所について理解させる。
- **内容（総合的な学習の時間、社会）**
 - ・ハザードマップをもとに、町を歩きながら、災害時に危険な箇所や防災に関する施設整備等を確認するとともに防災意識を高める。

さまざまな視点をもって自分たちの住む町を歩くことで、防災に対する新たな発見が生まれます。

- **地域や関係機関との連携**
 - ・市町村防災担当部局が説明や解説
 - ・市町村からのハザードマップの提供

図 8 中学校の実践事例 3

Case 1 津波シミュレーション講話を踏まえた避難訓練



【講話を聴講する高校生】



【東日本大震災時の町内被害状況の 슬라이ド】

- **ねらい・ポイント**
 - ・講話を踏まえて避難訓練を実施することにより、生徒の防災意識を高め、実際の災害を想定した実践的な訓練を行うことができる。
- **内容（総合的な探究の時間）**
 - 【津波シミュレーション講話】
 - ・町作成の津波シミュレーション動画視聴
 - ・津波浸水想定マップの提示

講師からの「いつ災害が起きても適切に判断できるよう、正しい知識をもって」などの声かけが効果的です。

- **地域や関係機関との連携**
 - ・町危機対策室職員による講話
 - ・青少年教育施設を避難訓練の避難先に設定

図 9 高校の実践事例 1

Case 2 防災ポスター作成と防災講話



【掲示した防災ポスター】



【振り返りシートの作成】

- **ねらい・ポイント**
 - ・教科等横断的な視点で防災教育を実施
 - ・ポスター作成で学んだ知識等をもとに、講演を聴講することにより、理解を深めたり整理したりすることができる。
- **内容（家庭科・特別活動）**
 - 【家庭総合における防災ポスター作成】
 - ・胆振東部地震の経験から、災害への備えを自分事として捉え、具体的な対策について考察
 - ・ポスターを他学年や地域の方にも紹介
 - 【防災講話】
 - ・地域で過去に起こった災害や今後想定される災害、災害への備えについての講話

講話後、振り返りシート作成により、学習内容を家庭や学校生活でどのように生かすか整理しましょう。

- **地域や関係機関との連携**
 - ・市防災担当者による講話
 - ・防災講話への地域住民の参加

図 10 高校の実践事例 2

Case 3 関係機関と連携した避難訓練と避難所設営体験



【陸上自衛隊と連携した避難訓練】



【段ボールベッドの組み立て体験】

- **ねらい・ポイント**
 - ・関係機関と連携した体験的な活動を実施することにより、地域の実情に応じた防災教育を推進するとともに、地域の防災力の向上が期待できる。
- **内容（特別活動）**
 - 【実践的な避難訓練】
 - ・消火器訓練や避難はしご訓練等の実施
 - ・怪我人の発生や、火災により階段が使用できない場面等、具体的な場面を想定
 - 【避難所設営体験】
 - ・過去の災害についての説明を受けた後、避難所設営体験を実施

段ボールベッド作成に当たっては、特徴や利点について考察し避難所の収容人数との関連から課題を明らかにする活動を取り入れましょう。

- **地域や関係機関との連携**
 - ・消防署、自衛隊等と連携した避難訓練
 - ・町防災担当者による避難所運営体験

図 11 高校の実践事例 3

Case 4 避難所運営ゲーム（北海道版「Doはく」）



【避難所運営ゲームに取り組む生徒】



【避難所運営ゲーム】

- **ねらい・ポイント**
 - ・避難所運営ゲームを通して、公助の視点を身に付けさせるとともに、主体的に地域に貢献しようとする態度を養うことができる。
- **内容（総合的な探究の時間）**
 - 【避難所運営ゲーム】
 - ・地域防災マスター等を講師として実施
 - ・避難者の年齢や性別が書かれているカードを避難所に見立てた平面図に配置
 - ・避難所で起こる出来事にとどのように対処するか話し合い、対策を検討

地域で想定される災害や実態を踏まえ、地域独自の「はく」を作成することも効果的です。

- **地域防災に係る探究学習**
 - ・地域の防災を探究課題とし、課題解決へ向けた考察を行う探究学習の実施
- **地域や関係機関との連携**
 - ・地域防災マスターを講師に招聘
 - ・保護者や地域住民に対する授業公開

図 12 高校の実践事例 4

Case 5 レスキューキッチンを使用した炊き出し訓練



【水を運び、調理の準備】



【レトルト食品の準備】

- ねらい・ポイント
 - 防災講話と炊き出し訓練を組み合わせることにより防災への理解を深めることができる。
 - 災害時の新型コロナウイルス感染症対策に留意
- 内容（特別活動・家庭科）
 - 【防災講話】
 - 自然災害に対する防災意識の向上
 - 災害時に主体的に行動し、自らの命を守り、地域に貢献しようとする態度の育成
 - 【炊き出し訓練】
 - 事前に防災食「アルファ米」を準備
 - 訓練後、生徒が災害時に貢献できることについて話し合うなど公助の視点で考察
- 地域や関係機関との連携
 - 気象台職員による防災講話
 - 市社会福祉協議会からレスキューキッチンを貸与

新型コロナウイルス感染症対策のため、レトルト食品による炊き出しなど工夫して実施しましょう。

図 13 高校の実践事例 5

Case 6 教科と関連付けた防災教育（防災ノートを活用）



【保健】において応急手当を学習】



【数学Ⅰ】において避難場所までの距離を計算】

- ねらい・ポイント
 - 教科における学びと避難訓練との関連
 - 教科で学習する知識等を体験的な学習と結びつけることにより、災害時の適切な判断や行動につなげることができる。
- 内容（保健体育・数学等、特別活動）
 - 【教科における学習】
 - 保健：ダンボール等、身近なもので行う応急手当の方法について演習
 - 数学Ⅰ：避難場所までの距離等を計算し、避難に必要な時間を考察
 - 国語、理科、家庭、外国語でも実施
 - 「防災ノート」を活用し、教科での学びと体験的な学びを相互の関係で捉え、学びを深めましょう。
 - 【避難訓練】
 - 教科での学びを踏まえた避難訓練の実施
- 地域や関係機関との連携
 - 消防署と連携した避難訓練

図 14 高校の実践事例 5

Case 1 小学校における幼稚園との合同避難訓練



【小学校のグラウンドに避難】



【防災についての紙芝居】

- ねらい・ポイント
 - 幼稚園と小学校が合同で実施する避難訓練において、実際の災害時の避難経路や保護者引き渡しについて確認し、幼児、児童が災害時に落ち着いて行動できるようにする。
- 内容（学校行事）
 - 避難時に小学生が幼稚園児を先導（手をつなぐ）して避難する。
 - 避難後、兄弟等を確認し、保護者引き渡しがスムーズにできるよう工夫する。
- 事前準備
 - 事前に保護者、地域住民の参加を促し、地域合同避難訓練とし、地域の防災意識を高めます。
- 成果（感想）
 - 小学生「いつもは小学校だけだけど、本当の地震の時はみんなが逃げてくれるのが良かった」
 - 幼稚園児「家の人が来るまで、兄弟できちんと待てるようにする」

図 15 学校間連携の実践事例（幼小）

Case 2 小・中学校合同の避難設営体験や水害VR体験



【小中学生混合の段ボールベッド体験】



【VR機器の体験】

- ねらい・ポイント
 - 小中学生が体験活動と一緒にすることで、中学生と小学生が地域の災害について共有し、協力して防災に貢献できることを知る。
 - 小学生も含めたグループで活動することで中学生が小学生をリードしながら、主体的に活動に関わるようにする。
- 内容（総合的な学習の時間、特別活動）
 - 中学生と小学生の混合グループで、段ボールベッドの組立などの避難所設営を実施
 - 水害の様子を体験できるVR機器により身近な場所での被害状況を知る。
 - 災害発生時、協力して避難所設営や避難誘導を行う人材を育成します。
- 成果（感想）
 - 中学生「先生が来られない時は、みんなが地域の人たちと協力して準備したい」
 - 小学生「災害が起きた時は、みんなに避難を呼びかけたい」

図 16 学校間連携の実践事例（小中）

Case 3 高校生による幼稚園への出前授業



【高校生の進行による防災クイズ】



【防災について説明する高校生】

- ねらい・ポイント
 - 高校生は、活動を通して、地域の防災に貢献しようとする態度が身に付き、地域を守る意識の向上を図ることができる。
 - 幼稚園児は、年齢の近い高校生とクイズなどの活動を通して、楽しみながら防災の大切さを理解することができる。
- 内容（特別活動）
 - 【防災クイズ等】
 - 高校生が進行役となり、防災に関するクイズを○×形式で出題
 - クイズの解説をスライドで掲示し、分かりやすく説明するよう工夫
 - 学校間連携による系統的な防災教育に取り組み地域の防災を担う人材を育成します。
- 成果（感想）
 - 高校生「今後も地域の方に防災の大切さを発信したい」
 - 幼稚園児「防災について、もっといろいろなことを知りたい」

図 17 学校間連携の実践事例（幼高）